



時の顔

「二〇〇一―一〇年は国連「世界の子どもたちのための平和と非暴力の十年」。これを広めようと、身の回り品を詰めたバギーを押しながら世界中を歩いている。九月中旬に入国した日本は二〇〇〇年にカナダの自宅を出発してから五十四番目の国。青森から鹿児島まで三カ月かけて南下中。

カナダで事業に失敗し「何か意義のあることをして人生を変えたかった」。世界行脚の計画を妻に打ち明けると、妻は言った。「応援する

「子どもに平和を」と世界中を徒歩で旅するカナダ人

ジャン・ベリボーさん

わ。どうせなら『子どもの十年』のために歩きなさい」

南米やアフリカの国々で、貧困や暴力がまん延する中で暮らす子どもを目の当たりにし「歩くことで力になりたい、なれるのではないかと、思うようになりました」。実際に行く先々の国で歩く姿が報道され、子どもたちの実情が注目された。それがイベント開催や寄付金集めの契機となった。

国連や企業の支援はなく、出会った人に思いを伝えるだけの旅。「歩いた距離は五万四千キロ。泊めてくれた民家は千二百。今履いている靴は三十九足目です」。ピューマや強盗にも遭遇したが、南アフリカのマンデラ元大統領や韓国の金大中元大統領にも面会できた。

自宅には一度も帰らず、妻は年に一回、旅先に会いに来る。旅は五大大陸を踏破した後の一一年秋に終わる。「経験したことをどう生かすか。本当の活動は旅が終わってから始まる」。五十三歳。